## ＜４回＞　子どもの背景をとらえる

「子どもは、ランドセルに勉強道具だけを背負ってくる訳ではない。家族の期待や願い、悩みや不安も一緒に背負ってくる。」・・・・これは、若い頃先輩から教えていただいた言葉です。

子どもは、学校に来ると学校の顔になります。でも、その背景には、家庭があります。

厳しく躾けられた子どもなら、学校では羽を伸ばしたいと思っているでしょう。甘えて育てられた子どもは、学校でも甘える相手を探すでしょう。不安があれば、安心を求めるでしょう。不満があれば、その不満をぶちまける場を求めるでしょう。

このように様々な子どもがいます。

思い通りの授業にならないのは、授業作りの未熟さばかりではありません。様々な事情を抱えている子どもたちの思いに合わせて対応できていないことがあるからです。

この子どもの背景を知ると、学習に向かう

子どものやる気を引き出しやすくなります。

・悩みや不安があれば、悩みや不安を聞き、授業前に悩みや不安を和らげる。

・愛情に飢えていれば、声かけを増やしたり、承認する場を増やしたりする。

・自信がなければ、些細な変化をとらえ、自信につながるように承認の場を増やす。

・教師だけでなく、仲間からも承認される場を増やす。

このように自分なりに授業の中で生かし方を見つけることができます。

これらの取り組みは、直接授業の内容とは関わりません。でも今日大事にされている学び方を身につける上でとても重要になります。

そのためには、子どもについての情報を集めやすいアンテナを作ります。

家庭と太いパイプを作ります。そして、子どもを生かすための情報を集めます。

・どんな家庭環境で育てられているのか。

・保護者の子どもへの願いは何か。

20 × 20

・子どもがどんな育ち方をしているのか。

　子どもが学校と家庭の狭間で苦しむことがあっては大変です。学校と家庭が同じ方向性をもち、「一緒に手を取り合って育てましょう。」と保護者に伝え、一緒に子育てをしたいと思います。保護者があなたを信頼できるのは、「先生は、うちの子を大事にしてくれている。」と思った時です。

　ですから、一人一人の子どもの後ろにいる保護者の顔を思い浮かべながら授業作りを考えると、子どもへの働きかけが変わってきます。子どもへの愛情があなたの授業を支えてくれます。これは、マズローの5段階の欲求（図1）から考えてもわかります。

　できるようになりたいというのは、自己実現の欲求です。その前提の欲求が満たされているかどうか、授業を見つめてみましょう。

　（アブラハム・マズローの言葉より）

人は安全を求めて退却するか、成長を求めて前進するかを選ぶことができる。

20×20